

# たいき 大紀町



## 人物

大紀町

### おおせとうさく 大瀬東作

大瀬東作は、市町村立学校の教職員給与等の一部を国が負担する制度（義務教育費国庫負担制度）の確立に力を尽くしたため、義務教育と地方自治の先駆者といわれています。大瀬は1885（明治18）年に度会郡七保村（現大紀町）で生まれ、34歳の若さで村長の職に就きました。

当時の義務教育制度では、小学校教員給与の国の負担額はわずかで、そのほとんどは町村に負わされていました。そのため、財政力の弱い町村では財政の半分が教育費に占められるほどでした。大瀬は、常に「義務教育の経費はすべて国家が負担するべきで、その分を公共事業や住民福祉に当てることができれば、地方が豊かになる」と考えていました。

そこで、大瀬はこの状況を打開するため、県内だけでなく全国の町村長に訴え、義務教育費国庫負担増額運動を始めました。七保村役場に全国町村会創立事務所が設置され、1921（大正10）年に全国町村会が誕生しました。

その副会長に選出された大瀬らの運動により、国の負担額は4倍に増加され、その後も全国町村会は全額国庫負担の実現に向けて運動を展開していきました。



大瀬東作  
全国町村会副会長の頃  
（大紀町教育委員会提供）

■現在の義務教育費国庫負担制度は、どのようになっているか調べてみましょう。

## 災害

大紀町

にしき  
錦タワー

わたらい たい き 度会郡大紀町錦地区では、過去に幾多の計り知れない津波災害に見舞われてきました。特に1944(昭和19)年の東南海地震の大津波によって、全壊家屋447戸、半壊家屋235戸、船舶被害101隻という多大な被害を受け、64名もの死者、行方不明者を出しました。

この東南海地震の教訓を生かし、1998(平成10)年に防災の拠点として、避難困難な地区に緊急避難塔「錦タワー」が、整備されました。

錦タワーは、円筒形の高さ21.8mの5階建てであり、東南海地震並みの津波が襲ってきても階段などを含め500人が避難できるスペースをもっています。普段は、1階は消防倉庫、2階は地域の集会所として活用され、災害から生命を守る「安心」の塔として地域住民から親しまれています。3階には東南海地震の被災写真や防災資料が展示され、防災に関する学習を深めることができます。

また、地域全体で避難訓練や小中学校下校時避難訓練、海上船舶避難訓練を行うなど、住民一体となった防災対策が行われています。【→P59】



錦タワー(大紀町提供)

■ あなたの地域では、どのような防災対策がとられているか調べてみましょう。

## 産業

大紀町

おおうちやま らくのう  
大内山の酪農

1948(昭和23)年に、大内山村(現在の大紀町)で乳牛を飼育していた酪農家をもとにして、大内山酪農農業協同組合が設立され、牛乳の生産、販売を始めました。そして、1961(昭和36)年からは、学校給食牛乳として三重県内の学校へ供給され、広く知られるようになりました。設立当初は、牛乳の生産、販売だけでしたが、その後、バターやチーズ、アイスクリーム、プリン、ヨーグルトなど、たくさんの乳製品が作られるようになり、生産量も増加しています。

これらの乳製品は三重県内の酪農家が飼育している乳牛によって支えられ、現在では、愛知県、奈良県、和歌山県、大阪府等の地域にも販売されるようになり、大紀町を代表する産業として大きく発展しています。

また、1995(平成7)年には、ふれあい牧場が開設されました。ここは、乳牛の飼育だけではなく、グラスポートや乳しぼり、手作りバター教室などの体験コーナーを設ける等、観光地としても知られるようになっています。



牛乳の箱詰め(大内山酪農農業協同組合提供)

■ 酪農家の人たちは、どのようなことに気をつけているか調べてみましょう。